

かけはし2



NO. 13
2022.10月

■事務所 〒875-0041 臼杵市大字臼杵72番地の47

TEL・FAX 0972-83-5911 E-mail hazime.ast8@gmail.com

2022年度第3回定例会

物価高騰の影響を受けている福祉施設や中小企業を支援 —省エネ設備の導入や経済活性化に必要な経費を—

大分県議会の第3回定例会が9月7日から26日までの会期20日間で開会されました。今回は、原油・物価高騰の影響を受けている社会福祉施設や中小企業者等の支援や経済活性化に向けて必要な経費が補正予算として計上されました。

補正額は92億898万4千円。既決予算額と合わせた累計は、7320億9872万8千円。原油・物価高騰対策と社会経済再活性化に向け、社会福祉施設等の電気代高騰分の2分の1を助成するとともに、省エネ設備の整備に4分の3を助成します。また、円安等により輸入牧草等の価格が急騰するなか、自給飼料の増産に取り組む酪農家に飼料費上昇分の2分の1を助成。その他、中小・小規模事業者の資金繰りを支援するため、中小企業活性化資金に限度額8千万円の融資を行う新メニューを創設します。



建設資材高騰などへの対応として、大分空港のホーバークラフト発着地の建設・港湾工事の設計額を見直し、約7億6700万円を計上して円滑な施工を確保するとしています。一方、昨年度の決算剰余金に伴う繰越金の49億2009万円は、財政調整用基金など4つの基金に積み立てます。

主な歳入や項目など概要は以下の通りです。

【歳入の内訳】

国庫支出金	19億7576万5千円
繰入金	7億9739万円
繰越金	49億2009万円
県債	5700万円
諸収入	14億5873万9千円

【財政調整用基金残高見込】

約294億円(対前年度末-26億円)

【補正事業の主な内容】

(1)原油・物価高騰対策と経済再活性化

○社会福祉施設等物価高騰対策緊急支援事業

16億1895万2千円

- 電気代高騰分の一部を助成と省エネ化に向けた取り組み支援。
- 高齢者福祉施設、障がい福祉施設、保育所・私立幼稚園等
- 病院・診療所・薬局・児童養護施設、私立学校等
補助率:1/2 省エネ設備整備 補助率:3/4 (75万円限度)

○酪農飼料転換緊急支援事業 1億395万円

- 輸入飼料に依存しない自給飼料増産に取り組む酪農家の増加分への一部助成
- 自給飼料増産利用計画を有する酪農家
飼料価格上昇額×1/2 (令和4年4月~10月)

○中小企業金融対策費 11億2109万1千円

- 中小・小規模事業者の資金繰りを支援するため新たなメニューを創設
限度額:8000万円 融資期間:10年
実質金利:1.5%(5年以内)

- 省エネ型の設備を導入する事業者を支援するため新たなメニューを創設

限度額:2億8000万円 融資期間:10年以内

実質金利:1.65%(5年以内)

(2)建設資材の高騰等への対応

○大分空港海上アクセス整備事業

7億6743万4千円

- 建設資材等の価格高騰に対応するため、ホーバークラフト発着地における建設工事、港湾工事について設計額の見直しを行い工事の円滑な施工を確保する

建設工事:7億6100万円 港湾工事:4億4600万円

(3)その他事業

○決算剰余金の基金への積立 49億2009万円

今後の健全な財政運営のため、3年度決算剰余に伴う繰越金を財政調整用基金等に積立

- ・財政調整用基金……………20億1417万2千円
- ・減債基金……………16億4006万4千円
- ・県有施設整備等基金…12億 585万4千円
- ・芸術文化基金……………6000万円



今、学校に必要なもの

人☆お金☆時間 (ゆとり) ☆どれも足りない！ ～ 教職員の善意で成り立つ教育とは？～

7月中旬から始めさせていただいた「学校訪問(調査)」。臼杵市と津久見市の小・中学校、特別支援学校を訪問させてもらいました。
さて、お話を聞くと、今の学校現場が抱えている共通した大きな課題が見えてきました。

1、人が足りない！

大分県や臼杵市だけの問題ではなく、全国的に深刻な問題です。子どもの教育は人である教員が行うのですが、その教員が足りない！なぜ、今になってこのように教職員が足りないのでしょうか。

今、小学校は35人学級を進めている学級数が増えているところもあります。また、最近では支援を要する子どもたちの数が急増しています。そのため、教員数が少ないということがあります。

しかし大分県でいえば、教職員になる若者が減少しているのです。事実、22



年の大分県教員採用試験の志願者倍率は、小学校ではとうとう倍率が1・00倍になってしまいました。では、若い人はどうして教職を選ばないのか。

2、お金が足りない！

臼杵市や津久見市の多くの学校の校舎や設備は、古い物が目立ちます。もち

ろ一つは、学校現場の「ブラック」な働き方があります。教育実習で教員の過酷な働きぶりをみて「自分にはできない」と、教職を諦めたという話もあります。

もう一つ、敬遠される理由に、大分県教委が独自に行っている頻繁かつ行き過ぎた広域人事があります。新採用から10年近く、県内のあちこちを異動させられるので「生活が苦しい」「結婚も子育てもできない」「将来の設計ができない」など、人事によるデメリットが言われ、敬遠の大きな原因になっているのです(県教委は認めません)。

教員が不足すれば、深刻な影響を受けるのは子どもたちです。教職員を必要数確保することは、子どもたちの教育に大きく影響します。業務内容の削減と、教職員に過大な負担をかける行き過ぎた広域異動人事を今すぐ見直さないと、大分県の学校に必要な教職員が少なくなり「先細り」となります。今が、その見直す時期だと思えました。

ろん、新しい校舎もありますが少ないです。「2階のトイレが廊下の一番端で1箇所しかない。休み時間、子どもが殺到する」「水道が限られていて、休み時間に水を飲めない子がいる」など、普通では考えられないような事態が、学校では今も起きています。



人口減少に悩む臼杵市や津久見市では、十分な予算が教育関係に回らない現状もあるでしょう。しかし、地震や台風など大きな自然災害が起きたら、危険な建物は学校だったなんて、笑い話にもなりません。校舎をはじめ、老朽化が進んでいるものは、県が補助をして速やかに対処するよう要求していきま

す。

3、時間が足りない (ゆとりがない)！

先生方は口々に、時間が足りないと言います。けつして仕事が遅いわけではありません。「ゆとり」がないのです。みな異口同音に、業務量は減るどころかどんどん増えていると言います。学校にいるときは、授業など子どもたちの指導に精一杯。さらには研修や出張があり、放課後は保護者からの相談にも対応します。中学校では部活動指導もありです。教育委員会は、「早急に『働き方改革』を進める」と掛け声だけは勇ましいのですが、現実ほとんど進んでいない状況です。

事務作業が多いと、教員は子どもたちとゆつくり話すことができなくなり、悩みや相談事を聞いてあげられる時間がなくなります。

学力やいじめ、不登校、友だち関係、部活動等々、多岐にわたり悩みを抱える子どもたちの話を、ゆつくり聞こうとすれば時間がかかります。でも、その時間となる「ゆとり」がないのです。

まず、教育は「人」が必要です。人を増やすことで、仕事を分散し「ゆとり」を作る。そうすれば、一人ひとりの子どもたちと関われる時間が生まれます。次に、業務量を必要なものに絞って削減すること。「子どもたちのため」という言葉でどんどん増えた仕事量を、思い切って削ることが求められます。子どもたちが多様化する時代に対応するためには、教職員の気持ちに余裕や「ゆとり」が絶対に必要です。



実際には話を聞いて、もつとたくさん課題や問題がありました。これまでに、超勤手当の制度もなしに増える一方の業務(なかには、教職員がしなくてもよいものも含め)を教職員は「善意」でこなしてきました。しかし、それももう限界です。自己犠牲的な教職員の善意の上で成り立つ日本の教育とは何なのでしょうか。

先生方が、心身ともに健康でやる気に満ちた姿であってこそ、子どもたちに生きて働く教育ができるのです。

地域別課題研究会 in 大分

会派「県民クラブ」では、8月25日〜26日の2日間、大分市や津久見市の市政をはじめ、地区で活躍されている方々の取り組みについてお話を伺い意見交換を行いました。



【むかし野菜の邑】

元銀行員だった佐藤茂行さんが、20年近くかけて育て上げた農園。この農園では、化学肥料などは一切使いません。そのかわり、葉っぱや木の枝、畜糞を混ぜた草木堆肥を使用。まさに昔ながらの「土づくり」からはじめていきます。

「ヨーロッパでは農業が消費者に認められている。日本は消費者が農業を認めていない。有機農家を潰そうとしているのが日本」と厳しく指摘。もともと私たち消費者が、本当に安心・安全な野菜を選ぶようにならないと、日本古来の有機農業は無くなってしまいます。

【公益財団法人すみれ学級(子ども食堂)】

小・中学生を対象に食事と学習支援を無償で行なっている「すみれ学級」。理事長の藤井富生さんは、かつて新聞社の記者から「給食のない夏休みに子どもが痩せる」ということを聞き、「子ども食堂」を始めました。

藤井さんも監事の鯉越さんも、子ども食堂「貧困」というイメージではなく、子どもの居場所という認識に

なければならないとし、福祉教育の必要性を述べられていました。

「生理の貧困も子どもの食の問題も、本来行政の仕事。少子化を食い止めるためにも、行政はもつと金を出さんといかん。シングルマザーなど本当に苦しんでいる」という藤井さんの言葉に、県議の自分にできることは何かを深く考えさせられた時間でした。



【中小企業家同友会】

来られていた4人の男性は、どなたもまだ30〜40代の若々しい方々ばかり。「中小企業家同友会は、経営者の道場」であり、100%会費のみで運営し他のどこからも干渉されないし特定の政党も支持しない。「自主、民主、連帯」をモットーにみなさんで運営しています。

組織内に7つの委員会・部会があり、今



回は障がい者問題委員会の取り組みをお話ししていただきました。障害がある人を雇用するというのは、ある意味雇用主に障がい者への理解がないと、うまくいきません。障がい者の抱える生きづらさといった問題を中小企業の中で解決していくのだとおっしゃっていました。障がい者の特性を受け入れること、受け入れる仕組みづくりをすれば、他の社員も雇用し納得してくれる。「障がい者の雇用をきつかけに、会社はどんどん良くなっていた」という言葉に私も勇気づけられました。

【大分市教育委員会】

県下の多くの小学校の教職員が集まる大分市。しかしその大分市でも教職員の人員不足に悩まされています。いやむしろ、欠員状況は周りの市町村より深刻でした。



本来居るはずの先生がまだいない、産休育休の代わりの先生がいらない、音楽や技術の先生がいらないなど、未だ先生の数が埋まっていない学校があるそうです。早速手を打ってはいるものの、新採用の先生は広域人事があるため、「30〜40代の臨時の先生に採用試験を受けるように勧めても、採用後少なくとも7年以上離れたところで勤務する。やはり受験するのを控える。いろんな採用時の条件を変えていかないと、他県に取られてしまう」と市教委も危機感を募

らせていました。

【大分市】

中核市である大分市。佐藤輝一郎市長から、現在最も大変なコロナ感染症対策についてお話がありました。今現在、保健所業務が逼迫しており、第8波・第9波が来たらどうなるのかということや、九州各県の中では大分県は感染者数が少ないのは、大分駅前設置した「抗原検査センター」が効果を上げているのではないかと。他県にも宣伝したいと述べていました。

また、医療機関より時間が来てても対応しないといけない保健所や消防救急の方がより大変だと語り、「何らかの手立てをしていく必要がある」と言っていました。

四国と九州大分県を結ぶ「豊予海峡ルート(豊後伊予道路)」についても、「将来の子どもたちのために訴え続けていきたい」と決意を述べました。

【津久見市】

津久見の四浦半島の素晴らしい景色を眺めたあと、2億4千万年前の流れ星のかけらが眠るといふ網代島へ。ちようど潮も引いて島へ歩いて渡れました。太古のロマンを少しだけ感じてから、一路津久見市役所へ。

川野幸男市長は、「市は人口減少で厳しい状況。コロナ禍ではあったが扇子踊を開催できた」と切り出しました。人口については毎年400人ずつ減少、大分市大在方面や臼杵市への転出が多



はじめの活動日誌



7月

- 13日 認知症サポーターステップアップ講座受講(臼杵市役所)
学校訪問と教職員との意見交換会(臼杵北中)
- 15日 学校訪問と教職員との意見交換会(上北小)
- 19日 学校訪問と教職員との意見交換会(堅徳小)
- 20日 学校訪問と教職員との意見交換会(下北小)
- 21日 学校訪問と教職員との意見交換会(南野津小)
- 22日 学校訪問と教職員との意見交換会(川登小・青江小)
- 25日 学校訪問と教職員との意見交換会(臼杵支援)
- 27日 臼杵市の人材育成に関わる
県教育長への要請と意見交換(県庁別館)
学校訪問と教職員との意見交換会(臼杵小・野津小)
- 28日 学校訪問と教職員との意見交換会(佐志生小)

8月

- 2日 学校訪問と教職員との意見交換会(市浜小)
- 6日 学校訪問と教職員との意見交換会(下南小)
- 7日 ヤングケアラフォーラム(大分市)
- 22日 夏休み子ども県議会見学(県議会)
- 23日 学校訪問と教職員との意見交換会(海辺小・千怒小)
- 25~26日 会派の「地域課題別研究会in大分市」意見交換会
(大分市~津久見市)
- 26日 学校訪問と教職員との意見交換会(臼杵南小)
- 30日 学校訪問と教職員との意見交換会(下ノ江小)
- 31日 学校訪問と教職員との意見交換会(福良ヶ丘小)

9月

- 3日 「日出生台から平和な暮らしを考える」学習
ならびに意見交換(大分市)
- 7日 第3回定例会開会(本会議場)
- 9日 「国葬」弔意の強制反対の申し入れ(県庁)
- 12日 「国葬」弔意の強制反対の申し入れ(県教委)
- 13日 代表質問(本会議場)
立憲ネットおおい「国葬」反対の声明発表
(県民クラブ会議室)
- 14~16日 一般質問(本会議場)
- 20日 文教警察委員会(第2委員会室)
- 26日 第3回定例会閉会(本会議場)
さくらの杜支援学校視察・意見交換
- 27日 地域課題別研究会で水素エネルギー研修
意見交換会(大分工業高等専門学校)

ホームページにご意見、 ご要望などお寄せください

最新の議会情報に会報「かけはし2」や様々な調査等々、掲載しています。皆様からのご意見やご要望なども受け付けています。よろしくお願いいたします。

【ホームページアドレス】

<https://hajime-takahashi.jp/>

QRコードはこちら→

【県民クラブHPはこちら】

<http://www.oct-net.ne.jp/kenmin-club/>



いということ、
どうあればいい
のか悩んでいま
した。
そこでグラン
ドデザイン構想
として、新庁舎を
港近くに移転。1
階を子育て支援
活動拠点とし、
2・4階は市民の
交流の場とする。庁舎に隣接して道の
駅を整備したいということでした。ま
た一方、福祉丸ごと支援体制として、安
心・安全な津久見市をめざすというこ
とでした。
半島部や離島を抱える津久見市です
が、今後も新しい発想で人を呼び込む
取り組みを続けてもらいたいです。



県民クラブ、知事と県教育長に 安倍元総理の「国葬」での 弔意の強制をしないよう申し入れ

9月27日に国民の半数以上が反対する中、安倍元総理の「国葬儀」が行われました。今回は政府が「弔意の強制はしない」と表明していたので、大きな混乱はなかったようです。
県民クラブは、9月9日に広瀬県知事、12日に岡本県教育長に弔意を県民に強制しないよう申し入れを行いました。広瀬知事も岡本教育長も「弔意を強制する立場ではない。半旗や黙とうなど強制はしない」と回答しました。
税金を使うのに、国会を開かず審議もせず決められた今回の「国葬」。たくさんさんの課題を残しました。



◇静岡県の認定こども園の通園バスの中で、3歳の女の子が重度の熱中症で亡くなりました。心からご冥福をお祈りいたします。昨年、福岡県でも同様の悲劇が起きていたのに、その教訓が生かされず、とても残念です。今回は、園側のずさんな対応がこの悲劇を招いたことは間違いありません。誰か1人でも「おやつ? 1人いないぞ」と気づき、すぐ保護者に確認するなどしていれば結果は違っていただはずです。保育現場の人手不足も深刻です。人が多ければ小さなことにも目が行き届きます。業務量に見合う賃金アップの支援など行政ができることはもっとあります。幼子がこのような悲劇で亡くなるのはもう見たくありません。

たけやま